

平成 24 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493800096	事業の開始年月日	平成20年2月1日
		指定年月日	平成20年2月1日
法人名	特定非営利活動法人 都筑折本会		
事業所名	グループホーム蘭寿しらかし		
所在地	(〒224-0043) 横浜市都筑区折本町1373-1		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成25年1月9日	評価結果 市町村受理日	平成25年3月23日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの周りは緑に囲まれ田畑も多く、散歩など環境面には恵まれております。お天気の良い日は、一緒にお散歩に出掛けたり、天気が悪い日などはユニット内でトランプ、ぬり絵、歌レクなどたくさん遊びを取り入れ、楽しんで過せる環境を提供できるように取り組んでおります。また、1年を通じて季節に応じた、お花見、地域の盆踊り、クリスマス会など様々な行事を行なっております。利用者様の喜びも悲しみも共有し、利用者様にとってより良い方向に行くように、今まで過ごしてこられたありのままの人生を受け入れ、日常生活のお手伝い出来るように日々取り組んでおります。また、“利用者本位”の理念の下、職員目線の介護の押し付けにならぬよう、何が利用者様にとって本当に必要なことかをご家族様を交えて皆で考え、ホーム全体の統一ケアとして取り組んでいます

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成25年1月30日	評価機関 評価決定日	平成25年3月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<事業所の優れている点>
◇利用者一人ひとりに合わせたケアを全職員が共有
どの利用者にも全職員がその人に対して同じケアを行うことで、全ての利用者が落ち着いて生活できている。その継続のために、年8回の職員研修の3回はこれをテーマとし、「しなければならないこと」「してほしいこと」「してあげたいこと」の優先順を具体例で示している
◇利用者が安心できる職員の長期勤務
職員の異動・退職が少なく、利用者との関係が馴染みの関係になり、利用者が安心して生活している様子が見受けられた。
<事業所が工夫している点>
◇介護食作りの道具持参での全員で楽しむ外食
近くには車の通らない川沿いの道や神社、お寺、畑などの散歩コースがあり、天気がよければ毎日出かけている。その他回転寿司など外食も毎月あり、全員が楽しめるように車椅子の人でも、食事介助が要る人でも介護食作りにはさみやミキサーも持って一緒に行っている。
◇誤薬を防ぐ服薬管理システム
利用者への与薬の誤りをなくすため、病院勤務経験のある職員が中心となって、名前入りの小箱への仕分け、名前を呼んで確認して渡し、服用の確認など7重チェックのチェック方式を作り実施している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム蘭寿しらかし
ユニット名	しらかし②

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は『利用者本位』で、利用者様のケアで優先順位を考え、職員同士が確認しながら、利用者様の立場に立って考え、実践しています。	・法人理念を職員たちでわかりやすくした「利用者本位」を理念としている。 ・パンフレットに” 私達のテーマは「笑顔」です” とあるとおり、職員は笑顔を絶やさないように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩での地域の方との挨拶から始まり、地域行事の参加を目指しています。盆踊りや獅子舞等にも参加しています。	・法人オーナーが地元の人で、ホームの活動は地域に知られている。祭り神輿などの地域行事以外に敷地内の草刈りも町内会で支援に来てくれている。 ・散歩の途中で土地の人から花や野菜を頂くなど、親しい交流が保たれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内で行なわれる行事等に参加しています。「こども110番のいえ」に登録しています。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、3ヶ月に一度の頻度で行なっています。	・3ヶ月ごとの開催内容は、出席できなかった家族にも来訪時に報告している。 ・会議席上で提案された委員による昼食試食会を開催して、意見交換を行った。 ・今後の委員会には、家族以外に成年後見人の参加も検討している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区役所の高齢支援担当者や情報交換を行うなどし、情報収集とホームとして出来る事を惜しまずに協力している。	・都筑区高齢障害課担当者との意見交換の中で、行政情報の収集や、運営上の指導を受けている。 ・都筑区グループホーム連絡協議会の感染症研修やブロック会のソフト食勉強会に参加している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様が不安にならないように、常に職員の見守り、声掛けを徹底し、安心して過ごして頂ける様に努力しています。身体拘束をしない様に努めています。	・身体拘束をしないことを職員に周知するため、年間計画の中で年2回内部研修を行っている。 ・身体拘束の対象となる行為の理解のために、身体拘束ゼロへの手引き、緊急やむを得ない場合の説明書も整えてあるが、拘束事例はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様を人生の先輩と尊敬し、着替え、入浴時に利用者様に異変がないか確認し、身体的虐待、言葉の暴力などないように職員同士で声を掛け合い、日々防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度後見人制度利用の利用者様が入居され、後見人様と関わる事が多く出来るようになり、今後意見交換をしながら取り組んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にご家族に入退去について説明を行っております。その他の疑問点についてもその都度説明を行い不安のないよう職員が対応しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族とコミュニケーションを図り、ご家族などが来訪時には現状の報告を必ず行い、意見や要望を取り入れるように努めています。	・毎月、家族に送る個人別の月末報告には、フロア職員が利用者の生活状況とコメントを記載して送っている。 ・家族来訪時に声をかけて意見や要望を聞くことを心がけ、必要なことは運営に反映している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や面談等、職員の意見、提案を聞く機会を設けています。	・理事長や管理者とは月1回のユニット会議で意見交換を行い、介護サービス現場での理念の具現化など話し合っている。 ・その席上で出された意見・要望は、更に実現のために詳しく話しあって、必要なものは運営に繋げるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、日頃から管理者や職員の勤務体制の把握に努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部、内部研修の機会を設けたり、介助方法など疑問を早急に解決できるようにし、一人ひとりに合わせて声を掛けるように心がけています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他のグループホームとの交換研修を行い、お互いの質の向上に努めています。また、地域の同業者と連絡を取るなどし、情報交換を行っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前面談時のフェイスシートなどによる情報と、ご家族からご要望や意見集めている。また、24時間シートなどを活用し、アセスメントを行っている。利用者の要望を聞き不安のないように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会や電話等で家族とコミュニケーションを取り、関係を密にして不安の無い様に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状や先を考え、今必要なサービスに対して、カンファレンス等行なっています。また、表情の変化など言葉では出てこない様子も常に観察し、盛り込んでいけるように努力している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、共に共有する時間を大切にし、一緒に暮らす家族のように関わっている。また、常に相手の立場に立って考え、寄り良い関係を築けるように心掛けています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連携を密にして、イベント参加など積極的に呼びかけ、日々の生活状況を十分に伝えられるように、何でもいえる関係を築ける様に努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に家族や友人が気持ち良く来て頂けるよう支援に努めています。	<ul style="list-style-type: none"> ・行きつけの美容院などは家族からの情報等で把握して支援しているが、利用者の高齢化に伴い友人等の来訪は少なくなっている。 ・年賀状の返事書きを手伝ったり、馴染みの人などとの通話ができるように、ホームのコードレス電話を居室に持ち込むなどの支援をしている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様全員に関わりを持ち、目を配り、それぞれの性格や利用者様同士の関係を考えながら孤立しないように努力している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された利用者の面会等を行なっております。また、必要であれば相談等いつでもご連絡頂ける体制を作っています。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様の以前の生活環境を理解し、それまでの生活環境に近いもの、希望などに合わせるように努めている。常に利用者様にとってどうすることが望ましいのか考えるように努めている。	・職員は日々の介護の中で利用者との信頼関係を深めることを心がけ、対話の中から意向を汲みとって支援に努めている。 ・コミュニケーションが困難な利用者には、家族からの情報をもとに、表情や素振りから気持ちを汲みとるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から事前に情報を収集し、今までと変わらぬ生活を送れるよう、ご自分のペースで生活できるように、過ごしやすい生活環境が作れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りを細かくわかりやすく行い、業務日誌、連絡ノート等で情報交換を行い、現状を把握できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	統一ケアをチームで話し合い、独りよがりにならないように、意見を出しあい利用者様にとってより良いケアが出来るように努めている。	・介護計画を「統一ケア個別対応表」に記録し、利用者一人ひとりに対する異なるサービスを全職員が理解し行動するシステムができている。 ・状況は原則3か月ごとにユニット会議で見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や申し送り、連絡ノートを職員が共有しながら実践や介護計画の見直しに努めている。見直しがある場合は、迅速に見直すように努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に情報交換をし、変化に対応出来るサービスを実践出来るように努めている。その必要に応じて、外部サービスなどを依頼し、訪問マッサージや通院の支援をしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の資源を把握する様に努め、利用者が安全で豊かな暮らしが出来る様に努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診、週1回の訪問看護師、利用者様の健康状態を報告し、特変があればその都度連絡しております。利用者様、ご家族の希望があれば、他の医療機関にも受診して頂けるように支援しています。	・協力医の内科、歯科往診を利用者、家族も受け入れているが、家族や利用者から希望があれば他の医療機関受診も支援している。希望で口腔衛生の訪問指導を受ける人もある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回看護師に状況を細かく報告し、適切な受診や看護を受けられるように努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会や電話連絡などにて、病院関係者、家族との情報交換や相談を行い、早期退院に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状では終末期を迎えた利用者はいないが、終末期に向けて医師やご家族、職員間でも十分に話し合いを行なう体制を整えています。	<ul style="list-style-type: none"> ・重度化対応については、入居契約時に「重度化に関する指針」を説明し、重度化した場合の医師の指示に基づく医療体制などについて家族に説明して理解を得ている。 ・看取りは現在実施していない。 	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアル、急変時対応チャートを常に頭の中に入れ、いつでも実践出来る様努めています。避難訓練時等に消防署からAEDの使用方法など講習を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署から避難訓練の指導を受け、避難経路や消火器の使い方、設置場所の確認をしています。	<ul style="list-style-type: none"> ・消防署の指導を受け、年2回地域住民も参加して避難訓練を行い、同時に職員の消火器使用訓練も実施している。 ・東日本大震災の後、食料品以外に乾電池の備蓄や、避難場所に近くのビニールハウスを想定するなど、現実的な対応が進んでいる。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様を尊敬し、自尊心やプライバシーを傷つけない様 にしています。利用者の言葉 に傾聴し、言葉掛けにも細心 の注意を払い、否定的な言葉 を使わない様にしています。	・事業所内研修やユニット会議で、人格の 尊重とプライバシー保護について全職員の 統一理解を図っている。 ・何事にも利用者本位及び利用者の尊厳を 守ることを第一とし、職員は言葉遣い、呼 びかけにも留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己 決定できるように働きかけている	日常生活の中で常に利用者の 希望に沿える様にしていま す。声掛けをして、出来る限 り、自己決定して頂けるよう 努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人 ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過 ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が何をしたいかをを第 一に考えて、一人ひとりの生 活ペースに沿った支援を心掛 けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	訪問理美容、利用者や家族の 意向に沿って、希望の身だし なみやおしゃれが出来るよう 支援しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や 食事、片付けをしている	週二回の自主メニューで、可能な限 り、ご利用者の召し上がりたいもの を、好きなものを提供し、盛り付け 等で目でも楽しめるように努めてい る。他、利用者に食事の準備片付け等 のお手伝いも無理の無いようお願い している。	・1週間の内業者献立は5日で、残りの2日は 自主メニューのため利用者が喜ぶ好みのも のを提供している。 ・利用者のうち、できる人が食事の準備、 後片付けなども応援し、食事は職員も一緒 で会話も楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事量、水分量などを業務日誌に記載し、一人ひとりの量が確保できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のケア、外出後の手洗い、うがい等を心がけている。介助が必要な方は出来ない所をお手伝いするように努力している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、声掛け、誘導、見守りをして、出来るだけトイレで排泄していただけるように心掛けています。	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄パターンは把握しているが、さりげない声掛けでトイレに誘導し、自立を支援している。 ・きめ細かな見守りと声掛け排泄誘導の結果、リハパンから布パンツに改善した事例もある。 	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の便秘の原因を理解し、自然排便が出来る様に乳製品等を召し上げて頂いたり、運動を取り入れています。薬を使用する場合は、担当医の指示で使用することがあります。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	体調や状況に応じて臨機応変に対応している。羞恥心を取り除き、見守る所は見守り、出来ない所は介助し、ご自分のペースで入浴して頂く様に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者は午後の時間帯に、週平均2～3回の入浴を楽しんでいる。 ・入浴支援ではできる限り同性介助を行い、自立支援のため自分でできるところは自分でやってもらうように見守っている。 ・湯温は利用者の好みに合わせている。 	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の休息のリズムや習慣を把握し、無理なく日常生活が過ごせるように、環境整備や職員が巡回を行い、一人ひとりが安全に気持ち良く眠れる様に支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬説などから用法、用量を把握しています。症状により薬の変更があった際には、その都度職員に変更した事を説明し、確認をしています。服薬表を作り、活用するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かし、散歩や歌、トランプなど利用者様の好きなことを理解するように努めている。レクは強要しないように努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や利用者の体調によりませんが、毎日散歩に出掛けられる様に支援しています。また、遠出の散歩、買い物、外食などのイベントの企画も尾行なうように努めています。	<ul style="list-style-type: none"> ・外出できる天候であれば、事業所の近辺は緑に恵まれ散歩コースとしては絶好であり、利用者は毎日散歩に出かけている。 ・その他、職員と買い物に出かけたり、事業所のイベントで回転寿司、花見、動物園などにも遠出している。 	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当ホームでは立替払いにしていますので、利用者様はお金を持っていないのが基本です。ただし、安心して頂く為に現状では、お金を所持している利用者は数人いますが、ご自分で管理して頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要な方には、ご家族に携帯電話を設置して頂き、利用者と常時連絡を取って頂ける様にしています。手紙についても自由にやり取りできる様に支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に職員が清潔、衛生保持をに努めています。共用空間は湿湿度の調整に気を配り、季節の花、家庭的な雰囲気作りに努めています。	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングは窓からの採光も豊かで明るく、職員はエアコン、加湿器も使用して湿度と換気に配慮し、室内は快適な状態に保たれている。 ・室内には季節感を感じさせる絵や飾り物を配置し、利用者にとって居心地の良い共用空間となっている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを設置し、思い思いにリラックスして暮らせる様な工夫をしています。利用者様同士不快にならない様に気を配り、声かけするように、配慮するように心がけている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前使用したものを使っていたいたり、趣味の物やご家族の写真などを飾り、今までの生活と変わりなく安心して暮らして頂ける部屋になっています。	<ul style="list-style-type: none"> ・居室は整理状態も清掃も行き届き、使い慣れた家具などを持ち込み、気に入った写真やぬいぐるみなどを飾って、自分の住処としてその人らしい居心地の良さを醸している。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食器拭きや洗濯物たみなどお手伝いして頂いている。極力自分で出来ることは自分で出来るように、残存機能を活かして、自立支援をするように努めている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム蘭寿しらかし

作成日 平成25年3月13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	利用者本位の徹底。	全職員が利用者本位の意識を徹底し、実践してゆく。	定期的な自己評価、面談の実施。会議などでの利用者本位の取り上げ。事例検討の実施。	1 2 か月
2	4	運営推進会議でのご家族の参加率が低い。	運営推進会議でのご家族の参加率向上。	運営推進会議の開催告知をお早目にお伝えし、参加しやすい環境を整える。	1 2 か月
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。